

尾上分庁舎の利活用に関する一般質問のポイントと今後の見通し

～ これまでの質疑応答内容を整理し、進捗状況・今後のスケジュール・利活用の方向性を分かりやすくまとめました ～

① 議員の主な質問（要旨）



葛西議員
（質問）

- これまでの会議（ワークショップ・審議会）の開催時期や回数、検討された意見は？
- 令和2年度中の方針決定に向けた具体的なプロセスとスケジュールは？
- 全議員への説明会、パブリックコメントの実施時期は？
- 利活用方針・共通コンセプト・方向性の決定時期は？
- 新たな利活用での利用開始時期は？
- なぜ決定が遅れているのか？

② 市長の答弁（主な内容）



長尾市長

- 弘前大学との連携調査研究事業として、今年度から検討を開始。
- 若手職員11名で会議を組織し、ワークショップを中心に検討。昨年6月から開始し、今年度は3月までに計6回の会議を予定。
- 先進地（岩手県紫波町、八戸市）の視察研修を実施し、取組段階から運営体制まで研修。
- これまでの検討は、具体的な利活用方法ではなく、公共資産の活用事例や官民連携、市民参画の手法の学習が中心。

③ 総務部長の答弁（遅れている理由）



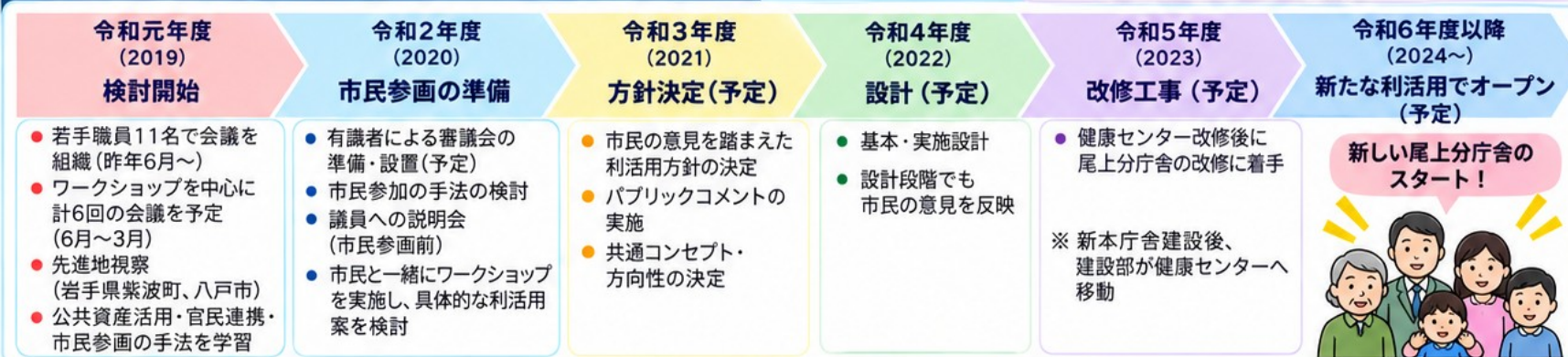
総務部長

- 弘前大学の先生方との勉強会に時間を要しており、今年度は6回の会議を予定しています。
- 手法が確定し次第、次の段階に進みます。

④ 市の考え方・今後の進め方

- 来年度、準備が整い次第、有識者による審議会を諮問機関として組織する予定。
- 市民を巻き込み、ワークショップを継続しながら具体的な利活用方法を検討。
- 市民参画の前には、議員への説明会を開催。
- 進捗状況は広報紙や瓦版などで市民にお知らせ。
- 最終的な利活用方針の決定前には、パブリックコメントを実施。

これまでの検討実績と今後のスケジュール（市の説明）



検討の進め方（イメージ）

ワークショップの様子（イメージ）



使ってくれる人
（市民・団体・民間）
と一緒に考え
“自分たちの場所”を
創り出す

将来の利活用のイメージ（例）

※具体的な内容は今後の検討で決定します。



今回の質疑応答のポイント

- ① 検討は進んでいるが方針決定は延長
令和2年度中の決定から、令和3年度以降に見直し。市民の意見を十分に取り入れるため、検討期間を延長。

- ② これまで6回の会議を予定
若手職員11名でワークショップを実施。先進地視察や講演を行い、官民連携・市民参画の手法を学習。

- ③ 遅れている理由
弘前大学の先生方との勉強会に時間を要しており、手法の確定を待って次の段階に進めるため。

- ④ 今後の流れ
有識者審議会の設置、議員説明会、パブリックコメント、設計・改修工事を経て、令和6年度以降の利用開始を目指す。